

平成23年度 第4回平田地域協議会 会議録（概要）

1. 日 時／平成23年11月8日（火）午後1時30分～午後4時
2. 場 所／旧山元分館 ホール
3. 出席者／
 - (1) 1号委員（団体推薦）
奥山仁委員、阿曾智子委員、伊藤市太委員、阿曾重雄委員、
菅原律子委員（副会長）、堀弥志男委員、長谷部耕次委員、加藤勝子委員、
庄司美智子委員、石黒真委員・・・・・・・・・・・・・・・・計10名
 - (2) 2号委員（識見を有する者）
阿部敬子委員、石黒均委員・・・・・・・・・・・・・・・・計2名
 - (3) 3号委員（公募）
石黒由香委員、富樫文雄委員（会長）・・・・・・・・計2名
 - (4) 酒田市教育委員会 学区改編推進室
岩堀慎司室長、小松原茂室長補佐・・・・・・・・計2名
 - (5) 酒田市平田総合支所
齋藤啓一支所長、石川忠春地域振興課長、中條幸弥市民福祉課長、
佐藤政好建設産業課長、地域振興課 土田瑞穂課長補佐、
小松原毅地域振興主査兼係長、地域振興係 阿部光正主任・・・・計7名
出席者合計23名
4. 欠席届／阿部彦悦委員（2号委員／識見を有する者）
5. 傍 聴／1名
6. 次 第／
 - (1) 開会
 - (2) 平田地域協議会 会長あいさつ
 - (3) 平田総合支所 支所長あいさつ

(4) 会議録署名委員の選任

(5) 報告

- ①松山中学校・飛鳥中学校の統合について
- ②主要地方道酒田松山線 道路改良工事の概要について
- ③デマンドタクシー運行の概要について
- ④酒田市平成24年度予算の要求状況について

(6) その他

(7) 閉会

7. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

皆さんこんにちは。本日は、この地域協議会の後に行う自主研修会の議題が中山間部の活性化ということもあり、ここ山元地区で開催することとした。

つや姫の収穫も2年目となったが、収量、品質など作柄について、思った以上に課題を残した年になったと思っている。私も有機栽培で米を作っているが、ほとんどが一等米であった。しかし収量は、私が米作りをしてきた中で最低であった。庄内における作況指数は97であったが、先日関係者と会った際に、作況の取り方について公開してもらいたい旨要望したところである。

先日行われた産業まつりは、市内や庄内町からも人が訪れ大変盛況であった。こうしたイベントなど、今後も様々な形で平田の地域カラーを打ち出していくことが大切だと思っている。

本日、中学校の統合に関する説明員として、学区改編推進室から出席をいただいている。委員の皆さんからは本日受けた説明を各組織や団体に持ち帰っていただき、真剣にご検討いただきたい。

平田地域協議会では、山積する地域課題に真正面から取り組み、役目を果たしていきたい。私も先頭に立ってがんばる所存であるので、委員の皆様におかれましても、引き続きご協力をお願い申し上げます。

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

▶ 齋藤支所長

どうも皆さんこんにちは。秋の収穫作業も終盤に差しかかっているが、会長のあいさつにもあったとおり、作況指数が100を切るという残念な状況となっている。夏場に好天が続いたにもかかわらず、こうした結果であったことには、何らかの原因があったと思われるが、おいおい明らかになっていくのではないかと考えている。この地域において、基幹となる稲作の状況が良くないということは、全般的な経済にも影響する。来年は豊作であってほしいと願っている。

文化祭、産業まつりについては天候にも恵まれ、盛大に開催することができた。実行委員をはじめ、関係機関・団体の皆様方のご尽力、ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

今年は、6月に二度、そして8月と3回の大雨に見舞われ、大変な被害を受けた。平田総合支所管内において市の予算で復旧にあたる個所は、市道、普通河川などが100カ所、農林道、農業用施設関係が140カ所であった。また、県管理の河川における被害は24カ所であったが、国の災害査定をおおた終えたところである。

今回の大雨被害の特徴としては、家の裏山が崩れるという被害も多く、被害の大小はあるものの、その数は20カ所を超えている。住宅への被害はこれまでもあったが、これほどの数には至らなかった。個人的には、震災の影響もあるのではないかという思いもある。市としては復旧を最優先課題ととらえており、地域の皆様からもご協力いただきながら、作業を進めていきたい。

現在市では、平成24年度予算の編成作業に入っている。1月の末ごろには全容が見えてくると思うが、引き続き厳しい財政状況が続いている。市庁舎については、先ごろ基本設計、実施設計の設計者がプロポーザル方式により選定され、いよいよ建設に向け動き出したところである。

本日の案件には、「中学校の統合について」の報告があり、説明者として、学区改編推進室から2名の職員が出席させていただいている。よろしく願いいたします。

(4) 会議録署名委員の選任

▶ 富樫会長

会議録署名委員として、阿曾重雄委員を選任いたします。

(5) 報告

①松山中学校・飛鳥中学校の統合について

▶岩堀学区改編推進室長（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

学校を統合する場合、受け入れる側としては異存がないのだと思う。今回の場合は、松山中学校の生徒、保護者、地域住民それぞれに意見があるのではないか。生徒にとっては大きく環境が変化するわけであり、中学校が統合しても、安心して生徒を学校に通わせることができるという理解を、松山地域の人たちから得られるかが最大の課題となる。

松山地域協議会に、PTAなど教育に関係する委員はいるか。酒田市の教育委員に、旧3町地域からの委員はいるか。

▶岩堀学区改編推進室長

松山地域協議会の委員推薦団体に、PTAは入っていないようである。5人の教育委員に、平田、松山、八幡地域からの委員はいない。地域という枠を超え、広く全市的な見地に立った判断をいただいている。

▶長谷部委員

合併し、旧3町地域の人口が1万8千人いるわけであり、そこからの教育委員が一人もいないということは不均衡だと思っており、こうした意見があったことも報告してもらいたい。教育環境や効率性など、生徒の将来を考えたとき、統合にはマイナス要素はないと思うが、地域から公平に意見を聞き、調整して、地域住民が納得したうえで統合を進めていくべきだと思っている。

統合を進めていくうえでは、交通に関する道路アクセスや安全対策、また夕方の防犯体制など、周辺の社会整備も必要となる。統合してからではなく、準備段階から同時進行し、住民が安全だと思えるような環境を整えてもらいたい。

▶岩堀学区改編推進室長

周辺整備に関するご提言、ごもつともである。学校が一つになる前に、通学路の変更などにより必要となる、街灯の設置、信号機の移設や設置といった周辺整備について、関係機関や団体とも協議しながら、できるものから取り組んでいきたい。

▶石黒真委員

本日示された、中学校の位置や統合の時期といった統合方針や内容などについて、保護者に対する説明はいつごろ行われるのか。

▶小松原学区改編推進室長補佐

今後日程調整を行いながら、両中学校や小学校の保護者、地域に対す

る説明に伺いたい。

▶石黒真委員

私たちPTAとしても、新しい中学校を本当に良い学校にしていくため、受け入れ側、来る側と一緒にあって、子どもたちのためにどんなことができるのか考えていきたい。早い時期に、説明を聞く機会を設けてもらいたい。

▶伊藤委員

統合について今回説明されたことは、決定事項ととらえていいのか。松山中学校の保護者などから、ある程度の同意を得られた後に決定となるのか。

▶岩堀学区改編推進室長

市教育委員会の方針を定めたということをご説明させていただき、ご理解とご協力をお願いしていきたい。松山地域においては、まず11月11日に開催される地域協議会において、統合の方向で進めさせていただきたい、校舎については飛鳥中学校を活用していきたいということをご説明し、引き続き、中学校や小学校、コミュニティ振興会単位にお話しをさせていただきたい。

▶堀委員

一中と五中が統合したときの校名問題のように、おかしなことに時間をかけることのないよう、良い学校を作っていくための話し合いを進めていってほしい。

▶岩堀学区改編推進室長

十分に配慮して進めていきたい。

▶富樫会長

中学校の統合については、今後平田地域の組織や団体から、改めて意見を聞く会を設けるということであった。委員の皆様からは、本日説明を受けた内容をそれぞれの組織や団体に持ち帰っていただき、ご検討くださるようお願い申し上げます。説明員の方、ありがとうございました。

②主要地方道酒田松山線 道路改良工事の概要について

▶佐藤建設産業課長（資料に沿って説明）

▶堀委員

現在の予定では、3月下旬には通れるようになるのか。

▶佐藤建設産業課長

3月下旬には国道345号までの部分の供用を開始すべく、工事を行っている。

▶伊藤委員

3月下旬の開通までに、信号機の移設は間に合うのか。

▶佐藤建設産業課長

警察との協議のなかで、3月下旬には信号機が移設されることになっている。

▶阿曾重雄委員

来年の4月以降、榑橋地内でも工事が始まるとのことだが、歩道も直すということであり、通学時などにおける子どもたちの交通安全に向け、対策を講ずる予定はあるのか。

▶佐藤建設産業課長

工事区間は通学路にもなっており、子どもたちの安全確保に向け、県とも協議を行いながら、誘導員の配置など交通安全のための対応を行っていききたい。

▶阿曾重雄委員

新しい道路の歩道は北側に設置されるが、子どもたちの通学時、国道345号との交差点のどの部分を横断するのかといったことについて、榑橋の子ども会など地域との連絡は行われているのか。

▶石川地域振興課長

信号の移設に伴う通学路について、交通安全協会の支部・分会、小・中学校、榑橋と飛鳥の自治会からご参集いただき、子どもたちの安全確保に向けた取り組みについて検討したところである。

現在のところ、必ず歩道を通ること、信号機のある交差点を横断するということを大原則としているが、どこを通るかなど具体的な経路については、引き続き検討していく。

▶富樫会長

明日9日、南平田小学校において、コミュニティ振興会の代表者、小・中学校の校長、私を含む学校安全指導員が集まり、飛鳥バイパスの開通に伴う通学路の見直しについての会議が行われる。その後は現地調査なども行いながら、学校と地域とで、安全な通学路についての検討が進められていく。

．．． 休憩 ．．．

③デマンドタクシー運行の概要について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶富樫会長

福祉乗合バスの変更に関する周知は、どのように行うのか。

▶佐藤建設産業課長

運行日、ルート、時刻などについてお知らせするチラシを作成し、11月16日発行の市広報と一緒に全戸配布したい。バス停留所にも、変更点を表示している。

④酒田市平成24年度予算の要求状況について

▶石川地域振興課長（資料に沿って説明）

▶阿部委員

田沢川ダムまつりは、山元地域にとっても活性化に向けた大きな事業であり、これまでも地元が協力しながら毎年開催してきた。平成24年度も予算化をお願いしたい。

「平田さしこ産業化支援事業」のところに、コミュニティビジネスという言葉が出てくるが、これについて説明していただきたい。

▶石川地域振興課長

コミュニティビジネスは、地域住民自らが、ビジネスの手法を用いて地域課題を解決しようとする取り組みのことで、本事業は刺し子という地域資源を活用した取り組みに対し、市として支援しようというもの。

▶菅原副会長

平田さしこの会に対する支援だが、効果をどうとらえているか。

▶石川地域振興課長

平田さしこに対する支援としては、平成22年度・23年度と、ふるさと雇用創出特別基金事業として、平田さしこの会で雇用した職員から、商品開発、PR活動、刺し手の皆さんが刺した刺し子を縫製して製品に仕上げる作業などを行ってもらっている。

産業化に向けた効果だが、酒田夢の倶楽に常設されている平田さしこの会の販売コーナーにおける売り上げが、平成22年度は170万円を越えている。しかし、会が自前で職員を雇用しながらやっていけるかという、まだそこまでには至っていない。徐々に認知度も高まり、販売も増えていることから、若い刺し手の育成なども含め支援を継続していきたい。

▶石黒由香委員

刺し子について、インターネットで注文を受けたり販売したりするシステムを作ることができたら、まだまだ伸びるのではないか。

▶石川地域振興課長

インターネットによる販売も検討はしているが、現在でも大口の注文には応じられない場合もある。刺し手の育成や、集めた刺し子を縫製し

て製品に仕上げる体制をどう作るかが、引き続き課題となる。

▶長谷部委員

十二滝について、山の斜面の部分と水の流れる部分では管理区分が異なるのか。

▶佐藤建設産業課長

滝つぼ広場は市の管理、倒木がある場所は県の管理、斜面については庄内森林管理署の管理となっている。

▶長谷部委員

観光客を安全に迎え入れるため、また十二滝の魅力をより高めていくため、斜面の整備等についての働きかけを行っていくべきだと思っている。

▶佐藤建設産業課長

滝つぼに降りていく遊歩道については市の管理になっており、補修を行った。

(6) その他

①災害時要援護者避難支援事業について

▶中條市民福祉課長（資料に沿って説明）

▶菅原副会長

災害時に支援が必要かどうかは春に照会されるが、1年の内には体の具合が変わる人もいるので、年に1回といわず2回確認してもらいたいという声もある。

▶中條市民福祉課長

福祉課に伝える。個人情報の保護に配慮しながら、自治会、民生・児童委員、包括支援センターが情報を共有する手法について、考えていてもいいのではないか。

▶奥山委員

災害による被害の復旧費用とするため、集落に対して交付される中山間地域等直接支払交付金のうち、個人に支払われる50パーセントの部分を75パーセントくらいにまで上げることは可能か。

▶佐藤建設産業課長

この制度の目的は、傾斜など不利な生産条件を共同の取り組みにより補い、耕作放棄地を出さないようにしようというものである。交付金の使用方法については、市から県に提出している平成22年度から26年度までの基本方針の中に、おおむね2分の1は共同の取り組みに使用すると定められている。現在の制度では、個人に支払う分を増やすことは

できない。奥山委員からの要望については、農政課に伝える。

▶富樫会長

中山間部における農業は、災害復旧や耕作放棄地など大きな問題を抱えている。現場の状況も調査しながら、検討してもらいたい。

(7) 閉会

▶菅原副会長

本日は、皆様より地域振興に向けた貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございました。これをもちまして、第4回平田地域協議会を閉会いたします。